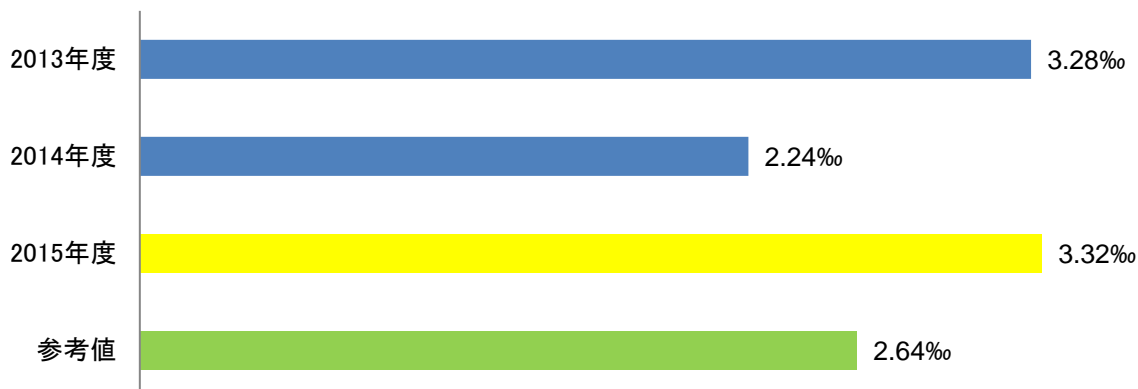


入院患者の転倒・転落発生率



※参考値出所：日本病院会 2015 年度 QI プロジェクト結果報告 No04-a 入院患者の転倒・転落発生率 一般病床 337 施設平均値
 ※‰=パーミル 千分率を示す値(1‰=0.001)

■ 安全管理の精度向上に取り組み続ける

本指標は全体の入院患者さんのうち医療安全管理室へ報告された転倒・転落件数の割合を千分率で示しています。患者さんが入院中、ベッド周りやトイレ周辺など、思わぬところで転倒や転落が発生しています。

2015 年度は 2014 年度と比べ発生率が上昇する結果となりました。発生原因には設備的な事、治療中の身体の不自由や認知症などの既往症等様々な要因が考えられ患者さんの個々の状況に配慮した安全体制を作ることが必要不可欠です。

2015 年度の結果を踏まえて病院内の一層の体制作りや職員への安全面の啓発を通して発生率の低下に努めて参ります。

医療安全管理室では日々、病院で起こるインシデント（事故発生の予兆）とアクシデントの報告を全部署から集めその分析や対策を講じています。安全管理の裾野は広く転倒・転落、投薬状況の管理、チューブ・ドレーン類の患者さん自身による抜去の有無、輸血など多岐に渡ります。その他、年 2 回の職員向け法定研修の実施や病院幹部が同席しての医療安全管理委員会の運営も行っています。2015 年 10 月から始まった医療事故調査制度への取り組みなど今後も医療安全・医療事故に関わる内容は厳しく問われていく事になりますので、荻窪病院の安全管理も常に強固なものとなるよう尽力していきます。



医療安全を目的とした
病棟ラウンドの様子